

わくわく園庭作りプロジェクト

～推進委員会だより～ 3月号

わくわく園庭作りプロジェクトとは

園庭が子どもたちの興味を引き出して主体的に遊ぶ場になるように、5歳児が中心にアイデアを出し、子どもと職員が一緒につくっていくプロジェクトです。令和4年度から取り組みを開始しました。

推進委員紹介

(敬称略)

自然環境の充実			遊びの充実	
池作り	植栽	虫の呼び込み	ごっこ遊び	運動遊び
園長	澁澤	澤田	古跡	
飼育栽培係 内藤			乳児部 荒木美	／長時間 坂井

【池作り】

<今年度の取り組み>

5歳児ふあいと組の子どもたちが、池で飼いたい魚を考えました。最初は、とにかく飼いたいものを次々挙げていましたが、調べる内に海水で生きる魚と淡水で生きる魚がいることを知りました。最終的に育てやすいメダカを飼うことに決めて、市ヶ谷のフィッシングセンターにメダカを買いに行き、ヒメダカとクロメダカを購入してきました。(9月)

メダカを入れた池は、雨が降ると水位が増えて池から水があふれること、水深が浅くて野生の生き物に狙われた(?)ことから、生存数が減っていきました。そこで、雨が降っても水位を一定にできる深さのある池に変えました。3月15日(金)にメダカの引っ越しのために、ふあいと2組の子たちが見守る中、網ですくい出すと予想(5匹程)よりも生き残っていてくれました。(15匹以上)

<今後に向けて>

池の周辺の樹木の葉が落ちて池に入り込むので、池の上に屋根をつける必要がありそうです。透明の波板を屋根にして、子どもたちが池の様子を見たり、陽の光は遮らないようにしたりする工夫をしていきたいと考えています。

【植栽の取り組み】

<今年度の取り組みと次年度に向けて>

園庭の花壇には、子どもたちが使いたいときに摘めるハーブや草花を中心に、季節ごとの草花を植え育ててきました。乳児部の子ども保育者と一緒に花の香りや色を楽しむとともに、幼児部の子たちは製作や遊びの材料に取り入れて、試したり工夫したりして楽しみました。草花に直接触れて親しむ中で、自然と草花の摘み方や花の形、名前なども覚えていきました。

春から夏は、パンジー、ビオラ、サルビア、ミント、レモングラス、バジルなどを使って、美味しいようなジュース作りや砂のケーキなどの飾り、お面に貼る等楽しんでいました。

秋から冬は、ハボタン、シクラメン、ポインセチアなど、色鮮やかな紅色が冬枯れの花壇を彩りました。春分を過ぎ、ハーブの若葉、ワスレナグサ、ヒメオドリコソウ、ドクダミなどの野草も次々と可憐な草花を芽吹かせています。新たに、ラベンダー、パセリ、パンダスミレなどの仲間も増えました。次年度も自然の美しさや面白さ、色や形、手触りや匂いの違いを楽しめる草花を増やし、育てていくことで、子どもたちが自然を身近に感じながら自然を愛する豊かな心情も育みます。

【虫の呼び込みの取り組み】

＜今年度の取り組みと次年度に向けて＞

今年度は、11月にふあいと組がグループに分かれて、虫を呼び込むためにできることを考え、案を出しました。活動の中で、虫の特性に関心をもったり、「カマキリとチョウを呼ぼうとしているけれど、カマキリはチョウを食べるよね。どうする？」などと食物連鎖に気付いて考えたりする姿が見られました。出来るところから、考えた方法を試していて、トンボを呼ぶために長い棒を花壇に設置したAさんは、見事、棒に止まっているトンボを見付けてとても喜んでいました！

しかし、活動をしたのが11月で、虫が減る時期だったことや行事の活動などもあったことで、保育者が子どもたちと一緒にじっくり試す時間を確保できなかったことなどが課題となりました。

子どもたちも「今は、もう幼虫しかないよね。」など虫が見られる季節があることに気付いていたので、次年度は春先に取り組みると、子どもたちがより楽しく活動できることでしょう。

また、「ここには、この虫が多い！」などの情報を園庭の地図に残していこうと、担当は考えていましたが、至りませんでした…。今年度、5歳児児が幼虫や虫を探している姿を4歳児が見ていることが多くありましたので、来年度は、ぜひ、園庭マップによく虫が来る場所や虫の種類を書き込んだりする活動になっていくとよいと思います。

【ごっこ遊びの取り組み】

＜今年度の取り組み＞

昨年度、ログハウスの向きを変えた場所に、おままごと道具を設置していきました。まず1学期にはお玉やフライ返しなどを掛けておくことができるような場をつくるため、みらい館の施設の方とも連携を図り、壁に穴を開けてマルチパネルを吊るす場を作りました。

また、6月から7月にかけて職員に呼びかけてご家庭で使用していない“フライパン”や“鍋”などのキッチン用品がある方に持ち寄ってもらいました。そのキッチン用品を環境に用意したことで、作った場に持って行ってままごと遊びを楽しむ姿が見られるようになりました。子どもたちからも、「なんだか、本当にお料理しているみたいだね」「ボールとかがあるといいね！」など遊びのイメージが広がる様子が見られたり、次にどのような物が必要かなどの言葉が聞かれたりしました。

＜次年度に向けて＞

遊びの場やイメージをより膨らませられるように、マルチパネルやままごと道具を増やしていきたいと思います。また、子どもたちの遊びの様子やつぶやきから、ごっこ遊びに必要な道具や環境を用意していけると、より子どもたちが“わくわく”“ドキドキ”する園庭になっていくと思います。

【運動遊びの取り組み】

＜今年度の取り組み＞

今年度、園にあるボールや大縄跳びの数や傷み具合などの確認と、挑戦意欲を引き出すホッピングや竹馬を新たに園庭の遊びに取り入れました。ふあいと組がホッピングや竹馬に挑戦しているのを見て憧れの気持ちを抱いてきたわんぱく組。最近の園庭では、ふあいと組に遊び方を教えてもらい、一緒に楽しむ姿が増えてきました。

＜次年度に向けて＞

ボールや大縄を見直すことで、今まで興味をもっていなかった子も興味をもち始めて、友達を誘って一緒にボールや縄跳びを楽しむ姿が増えています。引き続き、現在遊んでいるものの見直しや環境整備を行います。また、「自転車に乗れるようになるといいなあ」と委員では話しているので、実現に向けて検討していきます。

最後に… 今年度の推進委員の皆様、ありがとうございました！

次年度は、保育者の皆さんに5つのグループのいずれかのメンバーになっていただき取り組みます。ぜひ、子どもたちの思いや言葉を聞き取り活かすとともに、皆様のアイデアと力を織り交ぜて園庭環境を充実させていきましょう！ 園長 小林 晶子